

---

# 色は匂へど

麻人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

色は匂へど

### 【Nコード】

N6215G

### 【作者名】

麻人

### 【あらすじ】

いろは歌に彼女への想いを乗せて（乗せ切れてないかもです）。

(前書き)

いろは歌をベースに作成していますが、誤訳が多々あるかと思ひます。スルーして頂ければ幸いです。

色は匂へど散りぬるを

「綺麗だね」

柔らかな風に乗り、名残の雪のように舞う花びら

彼女は飽きもせず、季節が巡る度に同じ言葉を口にする

「綺麗だと思わない？」

暖かな日差しと彼女の軽やかな声色に微睡む

「寝ちゃったの？」

呟くように言いながら、頭を優しく撫でてくる

このまま時が止まってしまえば良いのに

わかっている

時は流れ、留まりはしない

ああ、いつからだろう

春が嫌いになったのは

あの、名残の雪のように舞う花を疎ましいと思いはじめたのは

色とりどりの花が香り咲き誇り

散ってしまうように

我が世誰ぞ常ならむ

“永遠”なんて無いと知った

同じ道と同じように歩んでいたのに

二本の道が見え始めた

きつと、別れる

彼女と己の歩む道

歩むべき道

歩みたい道

「ほら、綺麗だよ？見ないの？」

名残の雪のように舞う花

見る度に近づく別れ道

ああ、だから嫌いなのだ

暖かな別れの季節も

それを象徴する、あの花も

己と己を取り巻く世界の全て

その中の何が“永遠”でいられるのだろうか

いや、いらねはしない

有為の奥山今日越えて

「起きて。風邪ひくよ?」

そっと瞳を開ける

燈色に染まる花と彼女

「帰ろう?」

まるで、迷子を導くように手を引く彼女

今日が終わる

また別れへと近づく

辛く苦しい人生

今日も越えていく

浅き夢見し酔いもせず

「また来年も一緒に来ようね？」

嬉しそうに微笑む彼女

“約束”だと小指を絡ませた

例えるなら、春の夜の夢

酔ってはいけない



それでも、酔ってしまいたいと思うのは罪なのかもしれない

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6215g/>

---

色は匂へど

2011年1月27日11時13分発行